産業厚生委員会行政視察　令和７年 10 月 30 日～11 月１日

眞茅　弘美

1　山川漁港

① 指宿市の概要

人口約３万８千人（外国人技能実習生 588 人）

観光と農業のまち・・観光→砂蒸し温泉や九州最大の湖である池田湖や開聞岳また回転式そうめん流しの唐船狭等

農業→生産量日本一のオクラやソラマメ、観葉植物、畜産業

水産業→鰹節三大産地の一つとして山川漁港を中心に鰹節製造業が盛んである

② 山川漁港の概要

静岡県焼津市や枕崎市と並び鰹節三大産地として発展してきた。その中でも複数回のカビ付けを経て製造される本枯鰹節については、日本一の製造量を誇り、和食文化の根幹を支えている。

国県の補助事業を活用し、令和元年・２年に高度衛生管理型の開放型荷捌施設を整備し、また、令和３年には超低温冷蔵施設も整備された。

③　海業の取り組みについて沿岸で操業している漁業者は、高齢化により年々減少しており、今後、組合の存続に関わる危機的状況になってくる可能性もある。

観光のまち指宿市においては、多く訪れる観光客を、山川漁港エリア誘客し、様々な体験を通して漁港を満喫してもらいたい考えから、山川漁港を中心に、「海業」の取り組みが始まった。令和６年３月には、水産庁の海業の推進に取り組む地区に認定された。

『　指宿市では、「海業」の取り組みをすすめる主体が、行政ではなく、漁協が担っている』

海業の基本構想

令和６年　漁業体験実証開始

内港エリアで釣り体験（釣り筏）

養殖いけすでの、えさやり体験（現在は休止中）

漁業見学漁船クルーズ船　１艘　５名乗り　２時間 55000 円

令和７年　観光プログラム作成

クルーズ船誘致・・・誘致することになった経緯

⇓

共進組から山川港につけたいと話しがあった（山川港が条件に合った）

「観光バスが停車できる場所がある。トイレがある。内港の浮き桟橋と救命艇があれば可能」

観光客はその場でしかできない体験ができることを楽しみにくるが、一方ではクルーズ船がついても上手くやらないとお金は全く落ちないというこ

とになりかねない。

令和８年２月４月にクイーンエリザベスの寄港が決定している

令和９年　加工場オープン

旧冷蔵室跡地に地域水産物普及施設と加工場（種子島周辺漁業対策事業を活用）

令和 11 年　大型駐車場、トイレ整備

令和 12 年　漁具倉庫の一部改修

※山川漁港は組合員数 85 名　組合員数も減少してきて高齢化する中、令和５年 12 月の定例会で漁港を観光にも特化していこうという提案があり漁協に青年部が発足した

現在、アマモ場を増やす取り組みや三倍体真牡蠣の養殖の実現に向けて研究を行っている。

2　三崎漁港の海業について　　三浦市人口　35450 人

① 新海業プロジェクトについて

三崎漁港（本港地区及び新港地区）海業振興を目指す用地利活用プロジェクト

平成 13 年にオープン後大規模改修を行ってこなかった「うらりマルシェ」の改修を必須の提案事業とし、周辺の土地を活用して海業の振興を図るプロジェクト。

※(株)安田造船所、興和(株)の合弁会社エスパシオミサキマリンリゾート(株)によ

り、およそ 10 年かけてエスパシオブランドのホテル、ヴィラ、コンドミニアム、商業施設等が整備される予定だ。

② 港を活用した官民連携のまちづくりについて

民間企業（興和株式会社）のアイデアで土地の弱みを強みに変えることが可能になる

令和 7 年 3 月末に基本協定締結

三浦市では、成しえない規模の投資が実現・民間による施設整備が、働く場所が少ないことの解消につながる

※官民が、緊張感をもちつつ、それぞれの強みに基づき、協働し役割分担する。

民間のアイデア、資力、実行力をフル活用。事業化がスムーズにいくためワンストップが基本。

③多目的活用事業用地の活用

※用地を多目的活用に変更するにあたり、水産庁、神奈川県と十分な協議を重ねてきた

その結果・・・1 区画を水産関連施設用地・3 区画を多目的活用事業用地

国内では稀な、最大 300 フィートのクルーザーの係留が可能な浮き桟橋と、ラグジュアリーなトレーラーハウス 3 台整備済

3　三浦市低温卸売市場　日本初の冷凍マグロ専用卸売市場

漁獲直後に船上で、―60 度に急速冷凍された超低温冷凍マグロの品質を保ちながら衛生的に取り扱うために、次のような工夫をしている。

① 完全閉鎖型施設

② 温度管理　陳列室は 15 度で低温管理している

③ 場内床面の平滑塗装　超低温冷凍マグロに傷がつかないように、床面を極めて平滑に塗装し、また、抗菌塗装をしている

④ 場内長靴の導入　特殊な靴底の専用の長靴を義務付けている

4　今吉製茶　近年、抹茶ブームによりてん茶が注目されているが、その要因について。

茶園面積、自園 27ha、系列 22ha　合計 49ha

荒茶再生工場 1 ライン　てん茶工場 2 ライン　日本茶カフェ 1 店舗

霧島市初の茶小売店

※世界的に抹茶ブームのために、抹茶の原料となるてん茶が足りない状況にあり、海外を含めだいたい 1 週間に 1 事業者は買い手の来客がある。

また、全国的にも入札価格が高騰している。